宇治徳洲会病院麻酔科専門医研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する．

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う．

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本専門研修プログラムは，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し，地域の麻酔診療を維持すべく十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する．麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている．

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修の前半 2 年間は、専門研修基幹施設で研修を行うただし、前半 2 年間のうち、３カ月間を函館共愛会病院での地域医療研修を行う。
  また、専攻医のニーズに応じて 2 年目は、基幹施設等または福岡徳洲会病院、湘南鎌倉総合病院、湘南藤沢病院、済生会滋賀県病院、高井病院で研修を行うことができる。
- ３年目については、神戸大学医学部附属病院、島根大学医学部附属病院、京都府立医科大学医学部附属病院のいずれかをローテートする。

● ４年目については、専攻医のニーズに応じて専門基幹施設または、連携施設で研修を行う。

 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，ローテートを構築する。

研修実施計画例

年間ローテーション表

	１年目	２年目	３年目	４年目
A	宇治徳洲会病院（9カ月）/共愛会病院（3カ月）	宇治徳洲会病院（6カ月）/湘南鎌倉総合病院（６カ月）	神戸大学医学部附属病院	宇治徳洲会病院
B	宇治徳洲会病院（9カ月）/共愛会病院（3カ月）	宇治徳洲会病院（6カ月）湘南藤沢徳洲会病院（6カ月）	京都府立医科大学医学部附属病院	宇治徳洲会病院
C	宇治徳洲会病院（9カ月）/共愛会病院（3カ月）	宇治徳洲会病院（3カ月）南部徳洲会病院（9カ月）	島根大学医学部附属病院	宇治徳洲会病院（6カ月）/南部徳洲会病院（6カ月）

週間予定表

宇治徳洲会病院の例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	休み	休み
午後	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	休み	休み
当直			待機				待機

4. 研修施設の指導体制と前年度麻酔科管理症例数

① **専門研修基幹施設宇治徳洲会病院**

研修プログラム統括責任者：竹田 智浩専

門研修指導医：竹田 智浩（麻酔）

槇尾 真理（麻酔）　　清水 優（麻酔）

佐竹 早紀子（麻酔）　　福島　弘子（麻酔）

（ 麻酔科認定病院番号：1258 ）

特徴：当院は高度救命救急センター（民間病院では全国で2番目の認定）、地域がん診療連携拠点病院地域周産期母子医療センター、脳血管センター（1次脳卒中センターのコア施設）の指定を受けております。

緊急手術も多く、特に京都府南部地域で心臓大血管手術管理の件数が最も多いです。

また、外傷センター、四肢接合センターの設立、ハイブリッドERなどの設備も整えております。

ロボット（ダビィンチ・HUGO）手術は、泌尿器科・消化器外科で行っています。硬膜外ブロックをはじめとした神経ブロック症例も豊富に研修ができます。手術の麻酔管理以外に、ペインクリニック（認定施設）の研修も可能です。サブスペシャリティーは、心臓血管麻酔専門医、集中治療専門医取得が可能です。

麻酔科管理症例数					
麻酔科管理全症例数	小児（6歳未満）	帝王切開術	心臓血管手術	胸部外科手術	脳神経外科
4081	112	134	183	118	83

② 専門研修連携施設 A

京都府立医科大学附属病院　（認定病院番号：18）

研修実施責任者：天谷 文昌（ペインクリニック・緩和医療）

専門研修指導医：天谷文昌（麻酔・ペインクリニック・緩和医療）
小尾口邦彦（集中治療）
上野博司（ペインクリニック・緩和医療）

小川　覚（麻酔・ペインクリニック・緩和医療）
石井祥代（麻酔）
内藤慶史（麻酔）
飯田　淳（麻酔）
井上美帆（麻酔・集中治療）
早瀬一馬（麻酔・ペインクリニック・緩和医療）
松田　愛（麻酔・集中治療）
木下真央（麻酔）
山北俊介（麻酔）
山田知見（麻酔）
堀井靖彦（麻酔）
松岡　豊（麻酔・ペインクリニック・緩和医療）
永井義浩（ペインクリニック・緩和医療）
井上敬太（麻酔・集中治療）
藤原　恵（ペインクリニック・緩和医療）
仲宗根ありさ（ペインクリニック・緩和医療）
前田知香（麻酔・ペインクリニック・緩和医療）
大屋里奈（ペインクリニック・緩和医療）
平川由佳（ペインクリニック・緩和医療）
松尾佳那子（ペインクリニック・緩和医療）
専門医：北口菖子（麻酔・集中治療）
矢持祥子（麻酔）
石川大基（麻酔）
鈴木　悠（麻酔）
越田晶子（ペインクリニック・緩和医療）
特徴：集中治療、ペインクリニックのローテーション可能

麻酔科管理症例数					
麻酔科管理全症例数	小児（6 歳未満）	帝王切開術	心臓血管手術	胸部外科手術	脳神経外科
5920	413	102	651	249	127

③　専門研修連携施設 A

神戸大学医学部附属病院　（認定病院番号：29）

施設責任者：小幡　典彦

専門研修指導医：

小幡　典彦（麻酔）

野村　有紀（麻酔、ペインクリニック）
大井　まゆ（麻酔、小児）
巻野　将平（麻酔、集中治療）
法華　真衣（麻酔、心臓血管）
末原　知美（麻酔）
牛尾　将洋（麻酔、集中治療）
上野　喬平（麻酔、集中治療）
岡田　卓也（麻酔、心臓血管）
藤本　大地（麻酔、集中治療）
武部　佐和子（麻酔、心臓血管）
吉田　卓矢（麻酔）

専門医：

廣瀬　徹也（麻酔）
岡田　有理（麻酔）
白川　尚隆（麻酔）
杉野　太亮（麻酔）
坪井　ちづ（麻酔）
西原　侑紀（麻酔）
田中　明子（麻酔）
光井　誠子（麻酔）
阿瀬井　宏佑（麻酔）
中村　友季子（麻酔）
原田　みどり（麻酔）
中山　莉子（麻酔）
原　翔平（麻酔）
井関　将彦（麻酔）
中井　愛理（麻酔）
宮崎　純志（麻酔）
森本　優佳子（麻酔）
南　綾乃（麻酔）
内山　福美（麻酔）
森　梓（麻酔）
志賀　萌（麻酔）

特徴：大学病院であることから高度専門・先進医療を提

供している。多種多彩な症例の麻酔管理を経験できる。
また、集中治療やペインクリニック分野においても十分
な研修を行うことが可能である。

④ 専門研修連携施設 A

島根大学医学部附属病院 （認定番号病院：202）

研修実施責任者：二階哲朗

専門研修指導医：二階哲朗（麻酔、集中治療、ペインクリニック、緩和ケア）
豊田浩作（麻酔）
三原亨（集中治療）
本岡明浩（麻酔）
太田淳一(集中治療、麻酔)
横井信哉（麻酔）
橋本愛（麻酔）
蓼沼佐岐（麻酔、ペインクリニック、緩和ケア）
森英明（麻酔、集中治療）
小笹浩（麻酔）
片山望（麻酔、集中治療）
河原卓美(集中治療)
田村花子(麻酔、ペインクリニック、緩和ケア)
青山由紀（麻酔）
延原英介（麻酔、集中治療）

専門医: 太田絢子(麻酔)
松尾輝政（麻酔）
石倉聡（麻酔、集中治療）
郡司晃太郎(麻酔、集中治療)
松本慶太(麻酔、集中治療)
延原円（麻酔）

特徴：麻酔管理では全ての特殊麻酔症例、超音波ガイド下末梢神経ブロックを用いた症例、高度先進医療であるロボット手術、外傷センターを併設し緊急外傷手術などを多く経験できる。また、集中治療、ペインクリニック、緩和ケアも選択をすることが可能である。これらの領域を通して、広く多面的に麻酔科学の基本である全身管理の専門的知識、技能を習得できることが本施設の特徴である。

⑤ 専門研修連携施設 A

湘南鎌倉総合病院　（研修委員会認定病院：1436）（認定番号病院：879）

研修プログラム統括責任者：倉橋清泰

専門研修指導医：倉橋 清泰（麻酔全般、集中治療、生理学、基礎・臨床研究）

相野田桂子（麻酔全般、心臓血管麻酔）

石川 亜希子（臨床麻酔）

太田　隆嗣（麻酔全般、心臓血管麻酔、集中治療）

今西　晶子（麻酔全般、小児麻酔）

菊池　佳奈（麻酔全般、小児麻酔、産科麻酔）

中村　優太（麻酔全般、心臓血管麻酔、臨床研究）

黒澤　暁子（臨床麻酔）

山縣 文（臨床麻酔）

勝井 真咲 アン（臨床麻酔）

麻酔科管理症例数：7459 症例

特徴：鎌倉市、横浜市、藤沢市という一大医療圏にまたがる地域の中核病院であり、徳洲会グループの中でもフラグシップ病院としての機能を担っています。今年、第 8 版にバージョンアップした JCI を高い成績でクリアし、安全・安心な質の高い医療を提供しています。

麻酔科研修上の特徴を以下に列挙します。

●豊富な手術件数とバランスのとれた手術内容で、麻酔研修（一般および特殊麻酔）を 3 年間で終了させることができます。

●定型的な心血管手術に加え、低侵襲カテーテル手術（TAVI, Mitral Clip, 左心耳閉鎖）へも積極的に関与しています。これらの研修を通じて循環管理の要点を習得できます。

●心臓血管麻酔学会認定医兼 JB-POT 習得者が複数名おり、経食道心エコーの修得が容易にできます。

●緊急手術が豊富なことから、定型的な手術麻酔とは異なる応用力を身につけることができます。将来「麻酔科専門医です」と言うからには、このような対応を卒なくこなすことが求められます。

●長年医育機関に勤務し、また学会教育委員を務める倉橋主任部長がプログラム統括責任者を務め、総合的に質の高い教育プログラムを提供しています。

●医療の世界は屋根瓦式教育と言われていますが、専攻医の一つ下の瓦には、4 倍近い倍率を潜り抜けてマッチングしてきたやる気に溢れる 23 人の研修医が収まっています。これの意味するところは、そのような研修医の直属の上司となる専攻医は、彼らに教えながら高いレベルで自身も成長できるということになります。

⑥ 専門研修連携施設 A

医療法人徳洲会 福岡徳洲会病院　（認定病院番号：689）

研修実施責任者：責任者：北川 忠司

専門研修指導医：廣田 一紀（麻酔、ペインクリニック、緩和ケア）
鳴尾 匡司（麻酔）
北川 忠司（麻酔）
丸内　貴子（麻酔、ペインクリニック、緩和ケア）
瀬戸口 大典（麻酔、集中治療）
吉野 裕子（麻酔、ペインクリニック、緩和ケア）
向江 美智子（麻酔、集中治療）
三根　里絵（麻酔）
中村　尚子（麻酔）

麻酔科管理症例数：5299症例

特徴：年間10,000件を超える救急車を受け入れており、外傷、くも膜下出血、大動脈解離、急性腹症、帝王切開などの緊急手術症例を数多く経験できる。各科のロボット支援手術や循環器科で行うカテーテル手術（TAVI、MitraClip)の麻酔も実施する。また地域医療支援病院として、地域医療や災害医療の担い手となる実践的な麻酔科専門医を育成する。

⑦ 専門研修連携施設 A

医療法人徳洲会 湘南藤沢徳洲会病院　（認定病院番号：879）

研修実施責任者：福井 公哉

専門研修指導医：福井 公哉（臨床麻酔・集中治療・心臓麻酔）
日野　智子　（臨床麻酔・シュミレーション）
大澤　眞理子　（臨床麻酔）
野中　裕子　（臨床麻酔・ペイン）
今永　和幸　（心臓麻酔）
横内　かつみ　（臨床麻酔）
小出　史子　（臨床麻酔）
小澤　寛子　（臨床麻酔）
小野寺　潤　（臨床麻酔）
増田　義之　（臨床麻酔）
長谷　知美　（心臓麻酔）
窪田　絹子　（臨床麻酔）

増田　清夏　　（ペイン）
岡崎　薫　　（臨床麻酔）
専門医：木村　信康　　（ペイン）

断らない医療をモットーに運営している総合病院である。一般的な手術症例は、偏りが少なく、心臓麻酔、産科麻酔、小児麻酔、脳外科、呼吸器外科、ロボット支援下手術症例も経験することができる。神経ブロックなどの区域麻酔も積極的に行っている。手術室外では、経食道心エコー検査に従事しており、経験を積める。集中治療室運営を強化中である。

⑧　専門研修連携施設 A
社会医療法人高清会　高井病院　　（認定病院番号：1917）
専門研修指導医：宇山 真司（麻酔）
専門医：宇山 真司（麻酔科専門医）
橋爪 圭司（麻酔科指導医、ペインクリニック専門医）

特　徴：研修委員会認定病院取得特徴：県内で中心的な役割を果たす手術施設。
幅広く、多岐にわたる症例がある。
研修委員会認定病院取得

⑨　専門研修連携施設A
洛和会音羽病院　（認定病院番号：693）
研修プログラム統括責任者：大西　和宏
専門研修指導医：大西　和宏（麻酔）
篠原　慶子（麻酔）
高田　久美（麻酔）
谷　美登利（麻酔）
原田　秋穂（緩和）
山代　亜紀子（緩和）

特徴：京都市山科区内で中心的な役割を果たす病院。
三次救急を担う救急救命センターかつ災害拠点病院であり、緊急手術症例も含めた多様な症例を十分経験できます。
区域麻酔を積極的に行っており、神経ブロックに関してはインストラクター経験者も在籍しています。
また、昨年度より無痛分娩の提供を開始しています。
今後予想されるニーズの増加に備え、産科麻酔チームの立ち上げを視野に運用を検討しています。

⑩専門研修連携施設A
医療法人徳洲会　名古屋徳洲会総合病院　（認定病院番号：1133）

研修実施責任者：　赤堀　貴彦
専門研修指導医：　赤堀　貴彦（麻酔）
山田　佳奈（麻酔）
畑平　安香（麻酔）
田中　久美子（麻酔）
高柳　博子（麻酔）
加藤　ゆか里（麻酔）
兒玉　絵里（麻酔）
田中　美緒（麻酔）
専門医：　小林　加奈（麻酔）
恒川　亜里紗（麻酔）

特徴：心臓血管麻酔専門医認定施設です。1 年間で 400 件以上の心臓外科手術（開心術は約 350 件）の麻酔管理を行っております。ダビンチを使った心臓手術、 VAD、インペラ、TAVI などの件数も豊富です。緊急手術が多いのも当院の特徴で、A 型解離の緊急手術は年間 100 件を超えます。心臓手術だけではなく消化器、肝胆膵、食道、肺、外傷、関節、脊椎、ダビンチを使った泌尿器科手術、開頭、血管内治療、口腔外科と多彩な手術の麻酔管理を行っております。耳鼻科、産婦人科はありません。

⑪　専門研修携施設　A

医療法人徳洲会　松原徳洲会病院　（認定番号：1372）

研修実施責任者：責任者：一澤 敦

専門研修指導医：一澤 敦（麻酔、心臓麻酔）

平田 隆彦（麻酔、集中治療）

亀井 大二郎（麻酔、心臓麻酔、神経ブロック）

専門医　　：今井 百恵（麻酔）

麻酔科管理症例数：1830　症例

特徴：当院麻酔科では、患者様が安心して手術が受けられるように、一人一人の状態や手術内容に応じて適切な麻酔方法を選択しています。（全身麻酔、神経ブロック、硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔、静脈麻酔など）

術前診察を通じて、持病や、既往歴を把握し、合併症のリスクを最小限に抑える取り組みも行っております。

主治医や多職種の医療スタッフと連携し、安全で質の高い麻酔管理を行っています。

非常勤麻酔科医の協力の下に、緊急手術も２４時間３６５日対応できる体制を取っています。

⑫ 専門研修連携施設Ｂ

南部徳洲会病院　（認定病院番号 1749）

研修実施責任者：上原　英生

専門研修指導医：上原　英生（麻酔）

特徴：泌尿器科ロボット（hinotori）、整形外科手術ロボット支援システム（Mako System Smart Robotics）を導入し高度先端手術も実施していく。

認定病院番号：1749

⑬ 専門研修連携施設Ｂ

近江草津徳洲会病院　（認定病院番号：1464）

研修プログラム統括責任者：林 裕二

専門研修指導医：林 裕二（麻酔）

特徴：滋賀県湖南圏域　二次救急輪番病院

消化器外科、整形外科の手術を主とし、整形外科は近隣滋賀医大と連携を密にし、緊急外傷疾患手術にも対応しています。

少数ではありますが、脳神経外科、乳腺外科、歯科口腔外科にも対応しています。

⑭ 専門研修連携施設Ｂ

共愛会病院　（認定病院番号：1876）

研修実施責任者：責任者：立石晋

専門研修指導医：澁田達史（麻酔科）、谷口周平（麻酔科）、坂本幸基（麻酔科）、

専門医：澁田達史（麻酔科）、谷口周平（麻酔科）、坂本幸基（麻酔科）、只野隆幸（麻酔科）

特徴：地域医療における安全で適切な麻酔診療の実施

地域にある中規模病院で、消化器・耳鼻咽喉科（小児を含む）・整形外科領域手術を中心とした麻酔管理を経験することができます。

また、高齢者症例が多くを占めるため、慢性疾患管理を含めた周術期管理を経験することができます。

⑮ 専門研修連携施設 B

市立福知山市民病院　（認定病院番号：976）
研修実施責任者：村上敬之
専門研修指導医：村上敬之（麻酔）
小原潤也（麻酔）
特徴：京都府中丹地域における基幹的総合病院．京都府の災害拠点病院，臨床研修病院など多数の機能の指定を受ける．

⑯ 専門研修連携施設 B

医療法人徳洲会　榛原総合病院　（認定病院番号：1327）
研修プログラム統括責任者：
専門研修指導医：杉村　翔（麻酔科専門医）

特徴：地域唯一の中核病院として地域医療を守る病院。
麻酔科管理全症例件数：782
全身麻酔症例数：748
小児（6 歳未満）の麻酔　：７
心臓血管手術の麻酔　：59
胸部外科手術の麻酔　：3

⑰ 専門研修連携施設 B

医療法人徳洲会　野崎徳洲会病院　（認定病院番号：1822）
研修実施責任者：副院長　武富　太郎
専門医　武富　太郎（麻酔科）

特徴：野崎徳洲会病院

１．緊急の心臓大血管手術、腸穿孔、くも膜下出血、脊髄損傷などの重症症例が多く、術後管理を含めて周術期管理が学べる。

２．外科医との距離が非常に近く、コミュニケーションをとりながらストレスなく麻酔・術後管理が学べる。

３．ICU 管理では心臓大血管手術の術後管理、循環不全、呼吸不全（ECMO を含む）、敗血症、代謝性疾患などの内科管理まで幅広い症例を麻酔科が主体となって管理できる。

４．院内の人工呼吸装着患者の管理を RST（呼吸管理チーム）としておこなっている。院内急変対応、外来を含めた経食道心エコー検査、気管切開などの小手術も麻酔科で行っており、院内横断的な活躍ができる。

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法・期限までに志望の研修プログラムに応募する．

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，宇治徳洲会病院麻酔科専門研修プログラム website，電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である．

宇治徳洲会病院 医師人事課 課長 内藤 万嗣、主任 吉田 明央
京都府宇治市槇島町石橋 145
TEL 0774-20-1111
E-mail senmon-kensyu@ujitoku.or.jp
Website http://www.ujitoku.or.jp

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4 年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の 4 つの資質を修得した医師となる．

1）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能
2）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
3）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
4）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

7. 専門研修方法

別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する．

専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる．

専門研修２年目

１年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪いASA３度の患者の周術期管理やASA１～２度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる．

専門研修３年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する．

専門研修４年目

３年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる．

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する．研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される．

- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う．研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる．

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，**専攻医研修実績フォーマット**，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**をもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

12. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
- 出産あるいは疾病などに伴う 6 ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる．
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して 2 年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める．

③ 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする．
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる．

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院としての湘南鎌倉総合病院，福岡徳洲会病院，近江草津徳洲会病院、南部徳洲会病院など幅広い連携施設が入っている．医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する．

14.専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します．　年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価(Evaluation)も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する．就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します．